



岡山 史料ネット Newsletter Vol. 11 2024. 3

修復作業の様子
2023年12月

活動報告 (2023年9月～2024年2月)

1. 資料修復活動

引き続き2018年の西日本豪雨の際にレスキューした資料の修復活動を実施しており、12月に固着資料の剥離、洗浄、乾燥といった一連の作業をボランティアのみなさんと実施しました。

なお、これまで修復と調査を進めてきた井上家文書（I家文書）については、すべての作業が完了し、1月22日に倉敷市に資料をお届けしました。その後、所蔵者様から資料が倉敷市に寄贈されることとなりました。そのほか、土師家文書（H家文書）は、修復が未完了の資料もありますが、これまでに明らかになった内容に関する報告書が発行されました。同じく整理を進めてきた旧永瀬家ふすま下張り文書（N家）に関する調査報告書も刊行されました。次頁以降をご覧ください。

2. 「水損固着文書開披に関わる研究会」に参加

11月29日に、九州国立博物館で文化財防災センターと同館が主催した研究会で当会の活動内容について報告しました。灰汁などを用いた修復方法の紹介や、カビや菌の特徴といった生物・化学の分野からの報告もありました。全国の修復技

術者・学芸員・史料ネット関係者など40名が参加しました。

3. 全国史料ネット研究交流集会 in 首都圏に参加

2月17日・18日に一橋大学を会場にハイブリッド形式で開催された研究交流集会に参加し、当会も2023年の活動内容を紹介するポスター発表を行いました。2日間で全国から約450名が参加しました。参加記をご覧ください。

4. 令和6年能登半島地震に関する対応

元旦に発生した能登半島地震対応については、1月12日に全国の史料ネット関係者による緊急の情報交換会がオンラインで開催され、当会も参加しました。全国から約80名の参加がありました。その後、国は被災文化財等救援委員会を設置し、石川県で関係者により「いしかわ歴史資料保全ネットワーク」が設立されました。今後岡山からも何らかの支援ができればと考えています。

(文責・松岡弘之)

井上家文書の返却

山下香織（岡山史料ネット）

倉敷市本町にある井上家住宅（国指定重要文化財）の解体修理にあたり、倉敷市真備歴史民俗資料館（倉敷市真備町箭田）に移動されていた家財類は、2018年（平成30年）7月の西日本豪雨で被災しました。岡山史料ネットは、その中にあった文書類を救出し、このたび整理を終え、2024年1月22日、倉敷市教育委員会を通じて井上家に返却しました。

被災資料のクリーニングにあたっては、資料保存に関心のある一般の方をはじめとして、岡山大学の学生や岡山県文化財救済ネットワークの関係機関、県外の関係機関の職員等、多くのボランティアの皆様の協力がありました。救出や処置の過程は、地元の新聞やテレビなどマスコミでも随時報道され、コロナ禍にもかかわらず支援の輪が広がりました。

また処置方法も他地域の事例を参考に、セスキ炭酸ソーダを加えたアルカリ水洗浄、超音波による機械洗浄、スクウェルチ・ドライイング法による吸湿乾燥など、様々な方法を試み、技術的な向上を図りました。

救出した資料は元禄15年（1702）～昭和12年（1937）にわたる638点の資料です。明治20年代～昭和初期の井上家の人々と親戚との間の手紙類が多くありました。また、商店の版木や「星魁サイダー」のラベルなど、民俗資料としても興味深い資料も残されています。なかでも、元禄15年の水夫帳は井上家の由緒を語る上でも貴重な資料の一つです。

なお、この資料は井上家に返却後まもなく倉敷市歴史資料整備室に寄贈されました。倉敷地域の歴史を明らかにしてゆくための資料の一つとして、さらに西日本豪雨災害の記憶を刻んだ資料として、活用されることが望まれます。と同時に、被災資料の継続的な管理のあり方を考えていく必要があるでしょう。

『倉敷市真備 土師家文書報告書Ⅰ』 刊行のお知らせ

室山京子（岡山史料ネット）

このたび、岡山大学文明動態学研究所より『倉敷市真備 土師家文書報告書Ⅰ』を刊行しました。この報告書は2018年7月の豪雨災害によって水損し、レスキューされた被災資料の一つである土師家文書を取り上げています。岡山史料ネットでボランティアを募りクリーニングを進めてきました。全体で約400点のレスキュー資料のうち大部分は作業が終了し、冷凍庫で保管中のものは20点ほどとなりました。作業が終わったものは岡山大学の事業として資料目録を作成し内容分析に取り組みました。目録作成は資料の受け入れ当初から上村和史さんが担当され、2020年以降は室山が引き継ぎました。

土師家文書には同家の親戚である西林家に関する資料が多く含まれています。西林家は備中国川上郡福地（しろち）村（現岡山県高梁市）において代々神職をつとめた家であり、国の重要無形文化財に指定されている備中神楽を19世紀前期に草案したとされる西林国橋の生家でもありました。報告書には、江戸時代の西林家資料のうち、神楽に関するもの、神社を取り巻く争論に関するものを掲載しました。レスキュー資料以外に所蔵者が管理されている資料も掲載しました。すべて初公開となるものです。江戸時代の福地村についての先行研究がほとんどないため、同村の様子を伝える土師家文書は貴重な歴史資料です。なお、



クリーニング作業が終わり次第、目録を掲載する報告書Ⅱを刊行する予定です。

土師家文書は水損によるダメージが大きく、損傷の激しい資料が少なくありません。なかには氾濫した小田川が用水路から流れ着いたと思われる藻が付着しているものもありました。しかしながら、災害に遭遇しても廃棄されずに資料が残されたこと、そしてその背景に所蔵者や様々な人びとが被災資料に向き合ったという事実があったことに目を向けたいと考えています。リレーのように受け継がれた思いは報告書という形となり、新たな史実が明らかにされようとしています。また、藻が付着した資料は災害を伝える「証人」という新たな役割を担ったともいえるでしょう。

2024年3月1日、所蔵者である土師俊枝さんに報告書をお届けしました。「まずご仏壇に」と俊枝さんはおっしゃって報告書をお供えしてくださいました。

「旧永瀬家住宅襖下張り文書目録」について

内池昭子（岡山史料ネット）

旧永瀬家住宅は赤磐市松木に位置し、詩人として知られる永瀬清子の生家です。この家から発見された襖の下張りが、令和2年（2020）11月にNPO法人永瀬清子生家保存会から岡山史料ネットへ寄贈されました。災害という非常時のレスキューではなく、平常時における史料保全の事例です。下張り文書を剥離して目録を作成し、史料分析を行なった結果を報告書にまとめました。襖の下張りは表面が日焼けし酸化していたために、剥離には困難さを伴ったので、先行事例をもとに剥がし方を探りました。また、剥がした文書を分析することで、永瀬清子の祖父が、具体的にどのような商いを行っていたかもわかりました。さらに、この建物は国の登録有形文化財に登録されていて、建築年代が明治前期となっていました。今回の調査から、少なくとも明治14年以降の建築であると明確な年代を導き出すことができました。

た。古い家屋などから襖の下張り文書が発見された場合には、保存することの必要性を感じていただければ幸いです。この事例を、文化財建造物の修理の方へ紹介することも大切ではないかと思っています。

事務局より

これらの報告書は岡山大学学術成果リポジトリからどなたでもダウンロードできます。

井上家：<https://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/66641>

土師家：<https://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/66569>

旧永瀬家：<https://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/66540>

第10回 全国史料ネット研究交流集会 in 首都圏

齋藤興希（岡山大学大学院修士課程）

2024年2月18日（土）、翌19日（日）の2日間にわたり、東京都国立市の一橋大学で全国史料ネット研究交流集会在開催されました。今回は本年元日に発生した能登半島地震の被害を念頭に、近い将来直下型地震の発生が見込まれる首都圏において、史料の保存、継承に関する課題などを議論する趣旨で開催されました。能登半島地震をうけた緊急情報交換会も行われました。

各史料ネットでの保全活動の現状や災害対策、関係機関などの史料ネットを取り巻く環境など様々な報告が2日間にわたってなされました。史料ネット以外にも、行政や自治体の文書館、博物館、学生など様々な立場の報告者の視点で、平時、有事の防災体制が整えられている現状が報告され、議論が行われました。文化財保護法改正にともない自治体ごとに文化財保存活用大綱の策定が進められていること、自治体内において部署横断の体制が整えられていることなどの報告が行われました。

その一方で課題も多く提示、議論されました。自治体同士の広域な連携が検討されていない点や、自治体における人員不足の問題、その解消のための史料ネットとの連携における障害などが行政担当者の立場から危機感を持って複数報告されたことは非常に印象的でした。また学生の視点からは史料整理などの活動に参加する人の意識や、

人員確保に向けた課題の報告もありこれも大変興味深いものでした。

報告以外にも参加者同士の交流も多く行われました。1日目終了後には懇親会が設けられ、参加していた諸先生方や同世代の学生同士で交流することができ、多くの貴重なお話を伺うことができました。

今回の研究交流集会への参加は非常に有意義で貴重な経験になったと思います。資料保存・継承に携わる様々な立場の方の報告・議論を伺って現状を知ることができるとともに、なかなか交流の機会のない地域の同世代の方との交流もでき、多くの学びと充実感を得た研究交流集会でした。

レスキュー史料から（4）

このたび整理を完了した井上家文書から、江戸時代の学僧の寂厳にかかわる資料を紹介します。

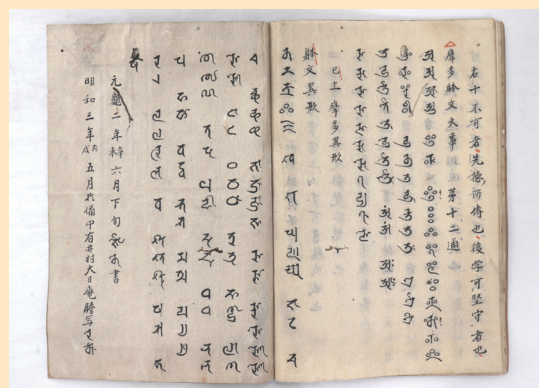
井上家資料には、6代当主安兵衛が出家した父の寺として建立した玉泉寺に関する一連の資料があります。

倉敷市連島の宝島寺の住職であった寂厳（元禄15年～明和8年）は、悉曇学者・能書家としても有名で、その資料は県指定重要文化財に指定されています。寂厳は明和4年（1767）～同8年に玉泉寺の住職を務めました。

井上家文書にある「玉泉寺書物目録」には寂厳の蔵書とおぼしき図書が多く記されています。

その中の一つの「悉曇十二通切紙大事」は、その末尾に明和3年に有井村の大日庵で筆写したものと記されています。偶然にも、大日庵とこの資料が被災した真備歴史民俗資料館とは、わずか数百mしか離れていません。大日庵には明治13年（1880）水害の犠牲者を供養した「溺死群霊之墓」があり、平成30年西日本豪雨災害にも見舞われましたが、令和5年（2023）に再建されました。水害からの再生への祈りが込められた場所である大日庵にゆかりがあるこの冊子が、被災しながらも再生できたことは奇縁というべきかもしれません。

（山下香織）



悉曇十二通切紙大事

歴史資料保全活動への支援募金のお願い

被災状況の調査や、被災資料のレスキュー、クリーニング作業など、活動継続のための資金が必要です。募金にご協力いただける方は、下記口座にお振り込みいただければありがたく存じます。

ゆうちょ銀行総合口座（普通口座）

【記号】15470 【番号】38569531 岡山史料ネット（オカヤマシリョウネット）

（他の金融機関からの振込の場合）

【店名】五四八 【店番】548 【預金種目】普通預金 【口座番号】38569531

事務局 〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1 岡山大学文学部日本史研究室内

《電話》086-251-7406 《e-mail》okayamasiryonet@gmail.com

《web ページ》<http://okayamasiryonet.s1008.xrea.com/>

《X》@okayamasiryonet

